

展示品一覧

今回は文化6年7月25日に幕府に提出した第6次測量の成果をまとめた大図2鋪が展示されている。大谷亮吉の『伊能忠敬』によると、大図22枚（四国が17枚、其他が5枚）、中図1枚、小図1枚、外に風景図11巻を添えて提出したとある。伊能忠敬記念館には第6次測量の成果としては次の6枚の大図だけが残っており、大谷の「其他が5枚」とは一致しない。

- ・「気賀街道〈自浜松／至長楽村〉首」 国宝の地図・絵図類83番
- ・「気賀街道〈自長楽村／至御油〉尾」 84番
- ・「河州若井郡自西郡村和州式上郡吉陰村 首」 85番
- ・「河州若井郡自西郡村和州式上郡吉陰村 首」 86番
- ・「和州式上郡自吉陰村勢州一志郡至市場村 尾」 87番
- ・「和州式上郡自吉陰村勢州一志郡至市場村 尾」 88番

85番と86番、87番と88番は資料名が同一である。また、展示されている85番と、昨年記念館が刊行した図録『国宝「伊能忠敬関係資料」』所収の86番の図版を見比べてみたが、相違を見つけることが出来なかった。87番と88番も同じものであるという。副本を2セット作成したのは何故だろうか。

資料名は題簽のままということであるが、「自」「至」の使用方法がおかしく意味を成さない。コンパスローズも記されていない。山並みや神社仏閣の絵画的表現の素晴らしさと謎に満ちた大図である。

○ 大図（奈良盆地）

「河州若井郡自西郡村和州式上郡吉陰村 首」 国宝：地図・絵図類 番号85

四国測量を終えて大阪に5泊したのち伊能忠敬測量隊は奈良に向った。大坂淡路町会所を出立した文化5年11月26日の測量日記には「大和路測量」という見出しが付けられており、異例の扱いがなされている。この大図の主要測量ルートは11月27日の河内国若江郡西郡村と山本北新田の境界 **A** から **B** 竜田へ入り、その後は奈良盆地の西縁、北縁、東縁を廻るものである。竜田から **C** 当麻寺まで往復し、竜田から郡山城下をへて **D** の奈良へ、奈良から南下して **E** 桜井へ、多武峰や **F** 飛鳥を経て **G** 吉野へ、高取を経て北上し **H** 今井町から東に向い **E** 桜井を経て初瀬村と吉隠（よなばり）村の境界 **I** までの測量である。

主要街道から枝線のような測線が多いのもこの大図の特色である。行き止まりの先は神社仏閣である。竜田からは信貴山朝護孫子寺や竜田大明神へ、郡山城下からは矢田山金剛山寺へ、唐招提寺から北に向う測線は西大寺まで延び、奈良盆地東縁では内山永久寺や三輪神社へ、飛鳥では飛鳥社（飛鳥坐神社か）、土佐高取の近くでは壺阪寺、桜井の西方では安部山満願寺へと測線が延びている。東端の初瀬村からも長谷寺へ測線が記されている。

山容の描き方も特徴的である。生駒山は大坂側から見た山容であるが、信貴山や二上山などは東側の奈良盆地から見た山容である。東西双方から描かれたそれぞれの山頂部の間は僅かな隙間を塗り残して接している。また奈良盆地の東縁の笠置山地は奈良盆地側から描かれており、一つの大図を三視点から描き分けている。この大図の2年後に作成された徳島大学図書館蔵の中図『大日本沿海図稿（五畿東海）』の奈良盆地の山容の描写でも三方向から山容を描く画法が引き継がれている。



千葉県香取市立伊能忠敬記念館蔵

測量日記には神社仏閣に無測量で参詣した記述も見られる。斑鳩では法隆寺門前まで測量した。法隆寺五重塔とならんで法輪寺や法起寺の三重の塔も描かれているが測線は無い。

地名の記載が墨の細字と朱の大字の二種類の記載方法を取っているのも特色である。朱の大字で「興福寺領三条村」「南都」「大佛」と記されたあたりには、墨の細字で「界 三条村 下三条村」「界 北室町 下御門」のように町界、村界、郡界を、また「樽井町測所」「興福寺東門」「一ノ鳥居」「仁王門」などと下図のような細かい情報を記載している。

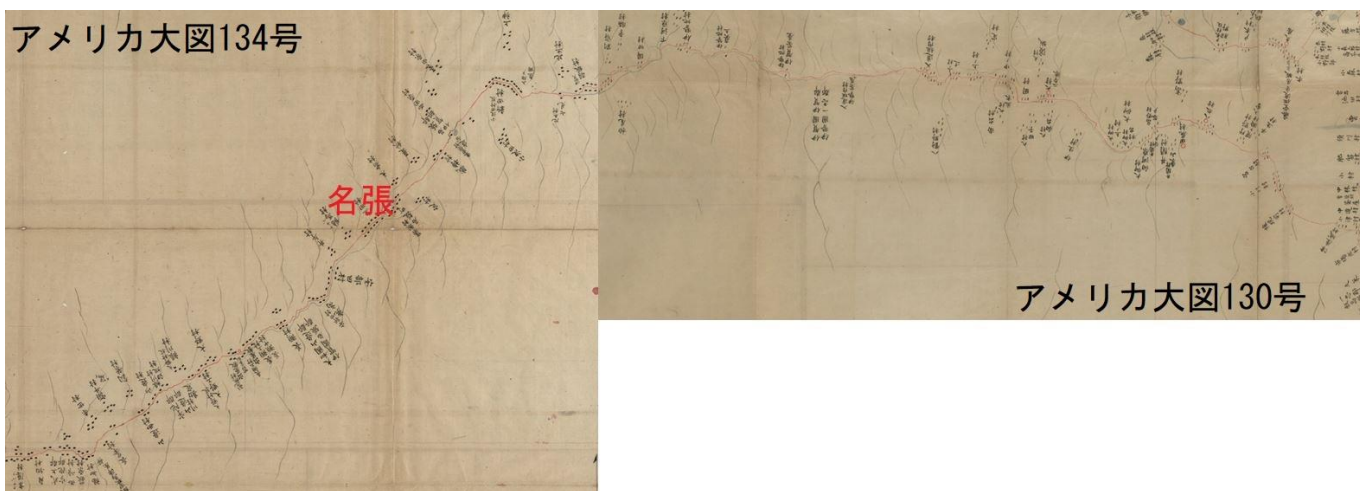
大和測量については会報64号と72号の星埜由尚氏の「伊能図の旅」で紹介されている。



○ 大図（初瀬街道 奈良～三重県）

「和州式上郡自吉陰村勢州一志郡至市場村 尾」 国宝：地図・絵図類 番号 8 8

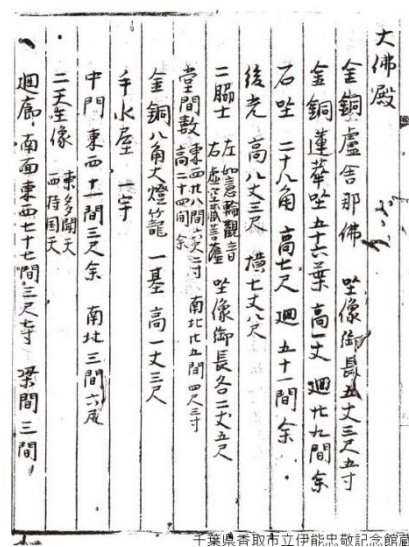
文化 6 年、縮尺 36,000 分の 1



奈良盆地の大図の東側に接続する大図であり、濃緑の山並みと朱書された地名が鮮やかである。文化 5 年 1 2 月 2 2 日に大雪の中を伊勢に向う初瀬街道の測量を始め、伊賀の名張を経て、2 7 日に市場庄村の六軒茶屋橋際まで測り、文化 2 年の第 5 次測量に接続させた。但し、この大図には第 5 次測量の測線は記されておらず、松坂等の地名もない。

○ 『大和国寺社霊宝録』 国宝：文書・記録類 番号 2 1 9

大和路測量の測量日記には、社寺について「伽藍霊宝別紙にあり」といった記述が見られる。その「別紙」にあたるのが『大和国寺社霊宝録』である。記念館では右の東大寺大仏殿の部分が展示されている。会報 5 2 号佐久間達夫「伊能隊・大和路で神社・寺院の宝物閲覧」では、西大寺や秋篠寺を紹介している。佐久間によると『大和国寺社霊宝録』には 2 7 寺院 4 神社が記録されているという。

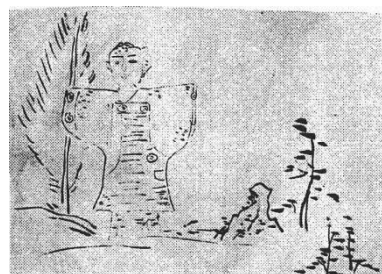


○ 青柳種麿『筑後国一條原石人図考』

国宝：文書・記録類 番号 5 3 6

青柳種信（種麿は初名、通称は勝治、号は柳園）は福岡藩の国学者、考古学者である。下級武士であったが、伊能忠敬の九州第 2 次測量に付き添った際に、その学識を高く評価され、世に出る契機となった。この間の事情は、河島悦子氏の「忠敬先生と筑前こぼれ話」（会報 3 3 号）や「伊能隊に付き廻った村役人の記録 - 高原文書」（会報 3 4 号）に詳しい。

『筑後国一條原石人図考』については国重正樹氏「青柳種信『筑後国一



『一條原石人図考』の考察」(会報52号)が詳しい。それによると青柳種信は忠敬からの依頼により、『宗像宮略記』『後漢金印略考』を著し、藩の許可を得て忠敬の宿泊先に届けている。同様に『筑後國一條原石人図考』も忠敬の依頼により作成され届けられたものではないかと推定している。

この石人とは福岡県八女郡広川町一条の石人山古墳の武装石人や家型の石棺のことで、八女古墳群の一つとして国の史跡に指定されている。『測量日記』の文化9年10月11日には「石人一、石櫃あり、高七尺幅三尺、奥行七尺五寸、入口高二尺、幅一尺四五寸」とあり、大図にも「石人形」と記されている。



○ 小区域下図（茨城県銚田市の海岸線）

「自常陸国鹿島郡下沢村至常陸国鹿島郡台濁沢村下図」

国宝：地図・絵図類 番号164

享和2年、縮尺36,000分の1、47.0×33.2cm、交界線無し

下沢村と汲上村の2点間に測線が墨書され梵天を立てた個所が記されている。また2点間の東西と南北方向に朱線が引かれ、大図製作上の寸法がそれぞれ「東西一寸七分五厘」「南北四寸八分00」と墨書されている。

○ 小区域下図（茨城県鹿嶋市の海岸線）

「自常陸国鹿島郡国末村至常陸国鹿島郡下沢村下図」

国宝：地図・絵図類 番号165

享和2年、縮尺36,000分の1、46.6×59.2cm、交界線無し

①国末村と⑤下沢村の2点間に測線が墨書され梵天を立てた個所が記されている。また2点間の東西と南北方向に朱線が引かれ、大図製作上の寸法が朱書されている。国末村には「↑印初 従是国末村」、下沢村には「従是下沢村 ⑤印」と記されている。

②平井村と③下津村の間はほぼ直線に見えるが3個所に梵天を立てている。

展示されている二つの下図は享和元年7月29日に測量した区間である。④の小宮作村では、佐原から伊能景敬や伊能七左衛門と海岸で面談している

○ 広域下図（志摩半島）

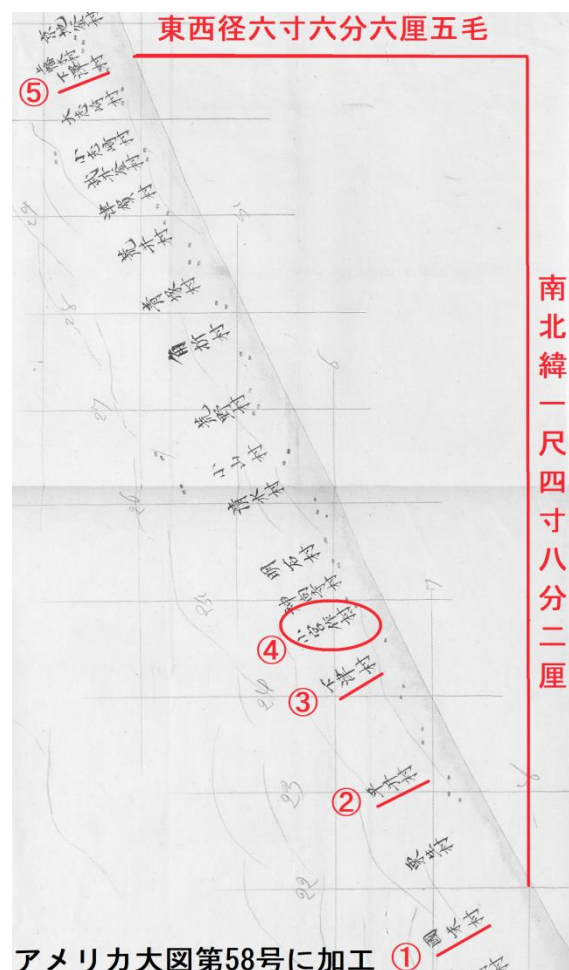
「志摩国下図」 国宝：地図・絵図類 番号308

文化4年、縮尺36,000分の1、86.1×144.6cm、

交界線の記入あり

裏面の一部が折り返されて展示されており「志摩一国図」の墨書が確認できる。志摩一国図とは云いながら伊勢の内宮や外宮も描画範囲である。アメリカ大図とくらべて下図には内宮、外宮の社殿は省略されており鳥居の印で済ませている。一方、下図には宇治、山田の門前町の町名が細かく記載されている。また下図の青峯山などを見ると、交界線が集まっているものの、かなりばらけている。徳島大学図書館蔵の中図『大日本沿海図稿(五畿東海)』では見事に一点に収斂しているが、どのように処理したのだろうか。

今回の展示では下図などとともに、該当個所の大図のコピーが並べられており、来館者に親切である。



アメリカ大図第58号に加工 ①



アメリカ大図117号に加工